

令和2年度
印西市民アカデミーだより
 第13号

印西の石造物 -その7-

今号は、石造物シリーズの最後の号になりますので、これまで掲載されなかった石造物(古い・珍しい)を紹介します。コロナ禍が過ぎ去ったら、これまでの資料を携えて訪ねてみるのも一興かと思えます。人込みは一切なく、昔ながらの風景に癒されます。先人たちの思いに馳せながらゆったりとした時間を過ごしてみたいはいかがでしょうか。



竹袋観音堂

寛文元年(一六六一)
 「聖観音菩薩」が刻まれた庚申塔。底部(土中)に三猿が刻まれている。



竹袋観音堂

寛文八年(一六六八年)
 「阿弥陀如来」が刻まれた阿弥陀如来立像塔。



竹袋観音堂

寛文八年(一六六八年)
 「如意輪観音菩薩」が刻まれた十九夜塔。



別所地藏堂

寛文九年(一六六九年)
 「大日如来」が刻まれた胎藏界大日如来時念仏塔。



別所地藏堂

寛文十三年(一六七三年)
 「如意輪観音菩薩」が刻まれた十九夜塔。上部が欠損している。



竹袋稻荷神社

浅間神社の祭神「木花開耶姫尊」(このはなのみぎはめ)を祀った石祠。富士信仰・浅間信仰の象徴。



竹袋稻荷神社

とても珍しい「月讀尊」(つくよのみこと)と刻まれた神社系の庚申塔。



長楽寺

青面金剛の両脇に二童子、その下に三猿、さらにその下に仁王・二鬼が刻まれた庚申塔。



火皇子神社

「庚申百社参詣供養塔」という文字が刻まれた一石百庚申。市内では大変珍しい。